

質問

50代の女性です。腰椎分離症と診断され、手術が必要だと  
言われました。症状がひどいようですが手術以外の治療法は  
あるでしょうか。右腰が痛むため、痛み止め薬を服用しないと動かせ  
せん。右足にしびれや痛みもあり、長く座っていると足首を縛られている  
ような感じになります。長時間歩くときからはきもパンパンに腫れてき  
ます。日常生活で気を付けることがあれば教えてください。また整形外  
科とスポーツ外来のどちらを受診すればいいのでしょうか。

手術以外の方法は

相談室

徳島県医師会

答え

腰椎分離症(以下分離症)は、椎弓と呼ばれる腰椎の後方部分が分離した状態のことを指します(図参照)。疲労骨折が原因と考えられており、成長期のスポーツ選手に多発します。日本の一般人では約6%(男性8%、女性4%)に認められます。

症状その原因は病期によって異なります。分離発生段階には、腰を反らしたときに狭い範囲に限られた痛みを感じ、ほとんどがスポーツ中やスポーツ後に腰痛を自覚します。ますます進行中の疲労骨

腰椎分離症



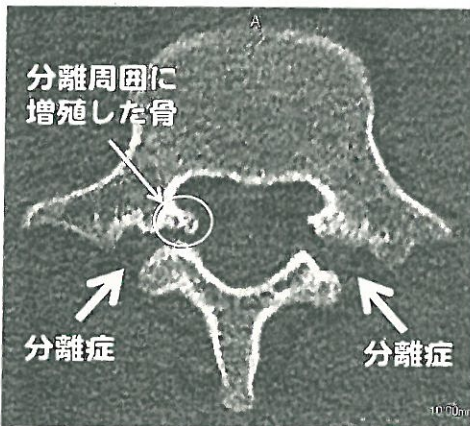
酒井紀典助 徳島大学病院整形外科 (徳島市蔵本町2)

折による痛みと思われます。完全に骨が折れてしまい分離が完成すると、分離部は偽関節となり、グラグラと動きまわります。このとき、主に腰痛や

下肢痛が生じます。腰痛の原因は分離部の炎症と考えられます。膝の悪い人の膝に水がたまるように、分離部に水がたまる患者さんもいます。

また偽関節となった分離部は、時折、周囲に増殖した骨が神経根を刺激し、下肢痛を引き起こすことがあります。座位や立位が長時間続いたときや歩行時に下肢痛、しびれなどの症状が出します。

病期・病態に応じて治療



このように分離症は発生形態こそ疲労骨折ですが、経年的に病態が次々に変化する疾患です。治療に当たっては、それぞれの病期・病態に応じた知識と治療法が必要です。

発生段階の分離症に対しては、骨癒合を目指した治療になります。コルセットを装着し、スポーツの中止を指導します。上肢や下肢の骨折に対してはギプス固定し、安静にするのと全く同じです。

ひとたび完成してしまった分離症に対する治療は、コルセットを装着して安静にしたところで骨癒合は望めません。よって、疼痛管理が治療の目的になります。分離部由来の腰痛に対しては、消炎鎮痛剤内服から始まり、症状が強い場合には分離部ブロックを行います。強い下肢痛には神経根ブロックを行います。

保存治療で効果がない患者さんには手術治療を行います。分離部由来の腰痛に対しては分離部修復術を適応し、下肢痛に対しては分離部除圧術を適応しています。両症状の併発例には、分離部除圧修復術を適応することもあります。

特にスポーツ選手に手術的治療が考慮される場合、背筋群にできる限り低侵襲(手術や検査などに伴う痛みなどをできるだけ少なくする)な手技が理想とされるため、われわれの施設では内視鏡などを使用した低侵襲処置を心掛けています。

相談者の方の症状からお察ししますと、完成してしまっただけで、分離部に炎症が起こり、さらに、分離部周囲に増殖した骨により神経根が刺激されている状態と推察できます。日常生活における注意点についてご質問をいただいておりますが、まずは正しい診断が必要だと思います。分離症に詳しい脊椎専門医のいる整形外科受診をお勧めします。